

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：ジュネーブ国際会議が閉会

2014年2月15日、ジュネーブで行われていたシリア政府とシリア国民連合との直接協議が終了した。同協議は、2月10日から開催されていた。協議では成果はなく、次回会合の日程が未定のまま終了した。協議を仲介したブラヒミ国連・アラブ連盟合同特使は、テロ対策や移行行政権など次回に議論する4項目で合意したと述べている。同時に同特使は、シリア政府も反体制派も、今次協議結果を踏まえた上で今後も協議を継続するかどうか検討したほうがいいと発言した。16日、米国のケリー国務長官は、シリア政府の非協力的な態度を批判した。シリア政府代表として会議に参加した、ムアッリム外相は英国と仏国の「陰謀」を非難し、米国は協議に非常に後ろ向きの雰囲気を作ろうとしていたと反論した。他方、同外相は、協議は失敗と報道されているが成果はあったとし、複雑な問題が簡単に解決すると考えるのは幻想だと述べた。

直接協議が終了する2日前の13日には、ブラヒミ国連・アラブ連盟合同特別代表、米国のシャーマン国務次官とロシアのガチロフ外務次官が国連欧州本部で協議を行った。協議の後、シャーマン次官と会談したシリア国民連合代表団のメンバーは、同協議は順調に行かなかったと述べた。

ジュネーブ国際会議は、1月22日、スイス西部のモントルーで全体会議が開催され、25日から31日までシリア政府とシリア国民連合の1回目の直接交渉が開催されていた。両者は今回初めて直接協議を行い、途中で席を立つことはなかった。

その他の動き

ジュネーブでの交渉が開始された後も、アレッポなどでの戦闘は継続した。中部ホムスでは、シリア政府と国連が2月6日から3日間の停戦で合意した。市内の戦闘地域から出られないでいた老人、女性、子ども約600人が退避し、人道支援機関が食料などを運び込んだ。ホムスでの停戦は14日まで継続された模様であるが、戦闘再開で市民の避難は中断されたと報道されている。

2月15日、在英のシリア人権監視機構は、死者推定は14万人を越えたと発表した。

国連安保理は、2月に入り、シリアへの人道支援に関する決議案を議論し始めた。2月初旬にはロシアが提出した決議案に難色を示していたが、2月12日には、同国の決議案を安保理常任理事国に示したと報道されている。

化学兵器廃棄に関しては、シリア国内からすべての化学兵器が2月5日までに国外に移送される予定だったが、作業が遅れている。OPCW（2月14日）は、3回目の移送が行われた2月10日までの移送はまだ全体の11%としている。

（中島主席研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799